

2018年年頭のご挨拶

新しい年を迎え、気持ちを新たにして、この1年を展望したいと思います。

少子超高齢化、人口減少が急速に進む中、高齢者を地域で支える、地域包括ケアシステムの構築を急ぐ必要があります。地域包括ケアシステムでは、高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で、自分らしい生活を最期まで送れるように、地域がサポートし合う社会のシステム作りが最終的な目標です。

ここで重要なポイントは、高齢者が住み慣れた地域で介護や医療、生活支援サポートおよびサービスを受けられるように、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」の体制を包括的に整備していくという点です。例えば、高齢者が病気になった場合、在宅担当医師と近隣の病院担当医師が連絡を取り合い、急変した患者さんを近隣の医療施設で治療しますが、ケースワーカーも関わって、早期に在宅に戻すことが重要です。高齢者が遠方の医療機関で治療を受けると、高齢の配偶者が付き添うこともできず、在宅復帰できなくなってしまいます。これら一連の体制作りを市町村が主導し、積極的に取り組むことが望まれます。また地域で見守りをしているボランティアの活躍も、大いに期待されます。

その中で、大和高田市立病院は、地域の中核病院として、葛城地区の他の病院と協力し、葛城地区の全日二次救急輪番を行う、病病連携の組織作りを進めてきました。本年中に大きな成果が挙げられると考えています。葛城地区には、500床以上の大病院がないため、365日の救急や、在宅の支援を一病院で行うことはできません。各病院が力を合わせることも重要です。また診療所や在宅、介護施設との連携も各病院が個別に行うのではなく、病病連携の病院群が中心となっていけないかと模索しています。

市立病院単独の取り組みとしては、「歩いて入院された患者さんを歩いて帰そう」というスローガンのもと、早期にリハビリ介入を行うリハビリ強化プロジェクトを推進しています。以前から行っている、積極的な退院支援と合わせて、高齢の患者さんでも速やかに在宅復帰できるシステム作りをめざしています。

スタッフ一同、中和医療圏の中核病院の自覚を持って取り組む所存です。この一年もご支援ご協力をお願いします。

2018年1月1日 大和高田市立病院院長 岡村 隆仁